

酒田市総合計画審議会 第1回産業交流部会 議事要旨

1. 日時

平成28年11月30日(木) 10:00~11:50

2. 場所

酒田市役所第三委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 産業部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田商工会議副会頭	吉川 哲央	部会長
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克	
庄内みどり農業協同組合代表理事組合長	阿部 茂昭	副部会長
酒田市袖浦農業協同組合代表理事組合長	五十嵐 良弥	
北庄内森林組合代表理事組合長	高橋 治雄	
山形県漁業協同組合指導課長	西村 盛	
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳	
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子	

【事務局】

農林水産部長、水産林政調整監、商工観光部長、建設部長（代理：土木課長）
企画振興部長、地方創生調整監兼政策推進課長、政策推進課

4. 議事内容

○事務局より会議の成立について報告

- ・本日の出席委員は8人であり委員定数9人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

(1) 現状と課題について

- ・資料1に沿って事務局より説明
- ・今回提示した「現状と課題」については、現計画の柱立てに沿って関係部課と協議しながら

取りまとめたものであり、今後、基本構想、基本計画の策定を進めるにあたって、審議会委員と共通認識を持つために策定したものの。

- ・本資料は現時点のものであり、今後委員の意見を取り入れるとともに、必要に応じ各種データを追加し改訂版として取りまとめたいと考えている。
- ・資料1中、本部会で議論いただく箇所 第6章、第7章。

○現状と課題についての質疑・意見等

【漁業について】

(委員) 漁業について、平成27年の生産額が13億円で、その内イカ釣りが8億6千万円。その前はイカ釣りを除くと約4億から5億円が、底引きと刺し網等の水揚げとなる。現在イカの値段が良く、イカ釣り船も入ってきており、酒田市でもイカを良くしていこうという状況を理解しての話だが、イカ以外も生産性を下げないようにしなければならないと思う。一例を挙げると、漁協では消波ブロックのイワガキを採っているが、約1か月で2、3千万円の水揚げになる。採ってしまえば無くなるので、育てる漁業が重要だと思っている。イカ以外の漁業についても把握していかなければいけないのではないかと。

⇒酒田市の漁業についてはイカ釣りが大部分で、県内船の3隻で8割、9割の水揚げを占めている。もっと水揚げを増やしたいということで、現在県外船へセールスしている。

育てる漁業としては、ここ2、3年トラフグ等の高付加価値につながる漁業について漁協さん、漁師の皆さんとともにがんばっている。イワガキ等について、育てる漁業として漁礁の提供という提案も民間からいただいているが、漁師の皆さんも育てる漁業と一緒にやりたいという思いがないと、なかなか市だけでは進めない。このような提案については、漁協さん、漁師の皆さん、関係団体等と連携して進めるべきだと考えているので、今後の課題として捉えている。なお、イカ釣りだけではなくてこれからはヒラメ、飛島の魚介類、海草類、貝類等も貴重な水揚げになっているので、振興していきたいと考えている。

【6次産業化、バイさかた、外国人観光客、新幹線について】

(委員) 13ページに6次産業化という言葉が出てきているが、あとはどのページにもその言葉が出てこない。そういった中で高付加価値を図るということであれば、これは国からの補助金を見越したような法人化の6次産業を求めているのかどうかということを知りたい。また、商工会、商工会議所、農協も、先般まではバイさかたということで地産地消、それに水産業を含めた農商工連携ということで協議会もできて動いてきた経緯があるが、そういったものが成熟した先に6次産業があると考え。バイさかたについて、これからの進め方はどのように考えているのか。次に14ページに、中心市街地まちづくり推進センターでは中心市街地での開業支援、とあるが、同じように創業支援センターもある。まちづくり推進センターというのは旧酒田市の中心市街地が対象であり、創業支援となると旧八幡、松山、平田のエリアも入ってくるので、この文言も入れていただければと思う。次に15ページに今後増加が見込まれる外国人観光客に対応できるように英語版のまちあるきマップを作成、とあるが、英語版だけでいいのか。中国、アジアの方々も多く訪れているのでそちらも考えたほうがいい

のではないかと。次に17ページの鉄道高速化について、酒田市は丸山市長の方針で山形新幹線の延伸ということだが、先般、鶴岡市の総合計画の今までの議事録を見たところ、鶴岡市では時間はかかっても羽越新幹線を進めたいという市長の答弁があった。また、県内の陸内交通については112号の機能の強化を進めたいと。であれば、酒田とは少し温度差があるわけで、鶴岡市は羽越新幹線に軸足があると理解する。そういった中で山形新幹線の庄内延伸については、新庄市、戸沢村、庄内町、遊佐町に鶴岡市も含めた協力・協調体制が必要になってくるので、課題にはそういった表現も必要ではないかと思う。

⇒農産物の高付加価値を図る6次産業化の取り組みについては、課題として捉えている。

地域の農業者や婦人グループ、産直のグループなどで米や餅、漬物などを中心に付加価値のある加工食品を推進しているところだが、なかなかヒット商品といわれるものが生まれていない状況。今後は生鮮農産物の販売にも力を入れていくが、それらを原料としながら、より報酬益を得られるような商品開発を進めていく必要があると考えている。今後も国や県等の事業を活用しながら取り組みに対して支援をしていきたいと思っているし、酒田の地場の農作物を使った付加価値の高い商品開発をしながらヒット商品を生み出していければと考えている。

⇒バイさかたについては現在も継続中であり、農林水産も含めて産業振興を図っていかなければならないと思っているので、今後も継続して進めてまいりたい。中心市街地まちづくり推進センターを現状の一つとしてあげているが、一昨年から創業支援センターを設置して全域の創業者を支援しているので、こちらについても同様に記述したい。街あるきマップについては英語版だけだが、折りたたみの市内の街あるきマップは英語だけではなく中国語、韓国語も作っているので記述を見直したい。更に、観光振興課に英語ができる職員を配置し、今年11月に外国人案内所を設置しているので、このことについても記述をしたい。また、鳥海山の登り口はじめ市内の様々な観光施設の案内板について多言語化していきたい。

⇒山形新幹線庄内延伸について、庄内2市3町で構成する庄内開発協議会の要望では、山形新幹線庄内延伸と羽越本線の高速化を掲げている。羽越本線高速化の協議会については、県の取り組みに移行する形で羽越新幹線の整備促進同盟会に名称変更した。山形新幹線庄内延伸も羽越新幹線も、庄内で区切れれば首都圏との連携、県内の機能促進を図る重要なインフラである。各市町、首長の立場からは、様々な温度差を生じてしまうことは承知しているが、延伸については、より一層の取り組みを進めていきたい。

【観光関係団体について】

(委員)15ページに、旧3町地区も含め観光関係団体等が情報を共有し発信していくとともに、連携して一体的に取り組む体制を整備していく必要がある、とあり、その上にホームページについては酒田観光物産協会と連携しより魅力的な情報を発信できるようにする必要がある、とある。丸山市長が任期中に必ずやると聞いたことがあるが、観光戦略運営の柱となる新たな組織の構築とは、どのようなものか。以前は旧3町にもそれぞれ観光物産協会があり、ひとつにまとめたかどうかはわからないが、意思の疎通・連携がうまくいっていないところがあると感じている。この観光戦略運営の柱となる組織というのは、どのような組織なのか。

⇒今までは酒田市、旧3町にいろんな組織があったが、市全体を統括するような組織がないということで、市民会議的な組織を作ろうと考えている。取っ掛かりとしては来年8月に外航クルーズ船が初入港するので、それに向けておもてなしができる組織を考えている。観光物産協会や観光協会だけではなく、企業や市民団体などを包括するような大きな市民組織を考えており、今年度中に立ち上げる予定である。旧酒田市の観光物産協会や旧3町の観光物産協会についてもご意見があったが、その団体とは若干趣が違い、市長が考える組織とは、市全体でおもてなしをしていくための組織化ということで考えているところ。

【インフラについて】

(委員) 中長期観光戦略が策定されているが、このような計画、戦略にインフラが追いついていないのか心配している。例えば飛島に観光客を呼ぶにも民宿が少ない、下水道設備も整っていないという話がある。計画や戦略にインフラが追いついているのかどうか確認をしながら進めていただきたいと思う。また、大型クルーズ船入港に関連して、静穏度対策のため防波堤の延伸整備が進められているとあり、これは国交省が進めている北防波堤の延伸を指していると思うが、北防波堤を最上川方面へ伸ばしていくと最上川が影響を受け、砂礫を酒田港へ招き入れ浅くなるのではないかと漁業関係者は心配している。様々な調査を経て決まっていると思うので心配ないのかもしれないが、遊佐町の吹浦漁港では2、3週間で港が埋まってしまった。酒田市も他が大丈夫と言っているから大丈夫ということではなく、静穏度対策について把握しながら進めていったほうがいいのではないと思う。また、酒田共同火力が県内消費電力の50パーセントを担っているということに関して、今年1月にCITY号が酒田港で座礁・沈没し、油が流出して共同火力が多大な迷惑・損害を被るといったことがあった。共同火力にとってこのような事故は致命傷になりかねない。風力発電が新たに作られるようだが、既存のものについても危機管理をお願いしたい。

⇒ご指摘のとおり飛島の民宿、旅館の廃業が相次いでおり、宿泊できる場所が少なくなっている状況にある。中長期観光戦略にインフラ増加については記載していないが大きな課題と考えている。飛島はジオパークだけではなくバードウォッチャーのメッカでもあるので、今後バードウォッチャーに対する施策も考えていきたい。高齢化が進み民宿、旅館をできる人が少なくなっている状況だが、そこを市が直接対応するということには至っていない。また、静穏度については国で計画しており、徐々に本港地区に伸びている。静穏度対策として防波堤の延伸だけでなく、嵩上げもしている。こうした対策もしていただいているので引き続きお願いしていきたい。北港は水深14メートルで東北地方では有数の深さである。外航クルーズ船も深さが重要であり、今後も浚渫等お願いして水深を確保していきたい。船舶の座礁について、油が流出すると取水口に詰まるということで危惧していたが、酒田共同火力で迅速に対応いただき、大きな影響がなく安心した。今後も突発的な事故については海上保安部、国、県と協力して万全の対応をしていきたい。

【農業について】

(委員) 園芸振興について、酒田市の農業販売額は米が大きいですが、米の単価はこれ以上期待できないと考えているし、マーケットでもこれ以上単価が高くなるとなかなか売りにくい、更に消費が減っていくと言われている。それを考えると、現状の中で農家が生き残っていくにはやはり園芸を取り入れていかななくてはならない。園芸の今年の秋作をみると、田んぼの中に野菜を植えた農家が長期の雨で収穫が半作あるいは皆無になっている状況が出ている。このような状況でどのような園芸をしていったらいいか、やはり施設をしっかりと建てていく、そして排水のいいところに園芸作物を導入していく、こういうことは行政の力がないとどうしようもないのが現状。園芸作物の取り入れ方の計画的な部分を市からも練っていただきたい。また、今砂丘地において松枯れが非常に深刻な状況になってきている。一日でも早く処理しないとどんどん病気が広がっていく。1本の木から連続的に3本に増えていく。森林組合と一緒にあって対処していかなければならない問題だが、酒田市からも大きな問題として考えていただきたい。

⇒園芸については、これまでも振興に努めてきたもののなかなか販売額等においては伸び悩んでいる状況。要因としては、ご指摘のとおり水田の園芸だと排水対策などが秋の収穫に影響を及ぼしている状況である。市としても、土地改良整備等において水田の畑地化や、灌漑施設等において水田の汎用化を目指しているところである。水田の畑地化においては、市の計画としては平成31年度までで約400ヘクタールの目標を掲げ、現在300ヘクタールまで畑地化が実施されている。汎用化についても、国の予算等の確保が厳しい状況で思うように進んでいないが、今後も園芸振興に力を入れる必要があるので国・県等に予算確保の働きかけをしていきたい。施設園芸についても、現在国、県の事業を使いながらパイプハウスなどの整備に対して力を入れているところなので、各農業者の要望を踏まえながら計画的に進めていく。

⇒松くい虫は平成22年度まで順調に減少していたが、23、24年の爆弾低気圧以降大幅に増加している。これは酒田市だけでなく遊佐町も同様であり、酒田市より激しい影響がある。この状況を鶴岡市、酒田市、遊佐町の2市1町のほか、山形県、森林管理署が連携して駆除・予防を進めているがなかなか止まらない状況。今月全量調査を実施しているがまだ止まっていない。昨年度の約3割増の状況。今年の被害のうち93パーセントを処分すれば来年度以降減少するという話になるが、昨年と今年、市では約1億円の予算をかけて抜倒駆除等の対応しているところであるがまだ収まらない。ここ2、3年がんばって伐採、駆除等していかないと貴重な防風林が少しずつ減っていくのは目に見えてわかっている。来々年まではまず全力で防除、抜倒駆除等を行っていきたくて考えている。これは市だけではなく国有地もあるため、森林管理署、山形県、近隣の自治体含めて全力で取り組んでいるのもう少し待っていただきたい。どの時点で減少するかは心もとないが、平成30年以降は松くい虫に強い松の苗が供給されると聞いている。今減ったところに、平成30年以降に少しずつ補植していけば、今の美しい松林が保存されるのではないかと考えている。今のところ、まずは防除しながら抜倒して、適正に林の中をきれいにしていくということを行っているのでご理解いただきたい。

(2) 未来会議における市民意識の傾向について

・資料2に沿って事務局より説明

【産業、酒田港、交通について】

(委員) 酒田に来て感じたことは、製造業の影が非常に薄いということ。また、資料を見て感じたことは、産学官連携が文言として出てきていないということ。これについては近隣に学術機関が少ないことが挙げられるかもしれない。鶴岡であれば荘内銀行などの金融機関があるので連携しやすいかと思う。産業の技術育成はじめ、事業を行なっていくうえでは、金融機関の情報・支援、学術機関との連携が欠かせないと思っている。地理的にそのような機関が少ないのであれば、ITで距離をカバーして、例えば東北大学等との連携を模索することがあってもいいのではないかと思う。1、2年で芽が出るものではなく、長いスパンで人材育成にもなるので、ぜひ取り組んでいただきたい。また、酒田の特徴と強みは国際貿易港の酒田港があることであり、今後の利活用について様々検討していると思う。資料の工業のところ、事業所数以外の数値が大きく改善していたが、これは特定の事業所によるものと考ええる。商業について、特に卸売の数値は分析したものがあると思うので入れてほしい。また、港は後背地に産業があることが前提となり、地場で育成するのも大事だが、道路整備が急速に進んでいるので最上、内陸の工業地帯との連携も進めていくべき。交通について、酒田は太平洋側のベルトと最短で結べる国際貿易港というのが最大の特徴だと思うので、山形新幹線庄内延伸の話と逆行するかもしれないが、貨物輸送を検討すべきだと思う。陸羽西線は勾配も緩いしカーブも少ないので、少し基盤を見直せば貨物輸送に適した路線であると聞いている。

⇒産学官連携に関して、ここ3、4年は政府系含めた金融機関と行政で施策の意見交換の場を設けるなどの連携をしている。酒田港については、最も重要なことは港湾計画の見直しと考えている。港湾計画は10数年前に策定されたものであり、当時から貨物の内容も変わっている。以前はロシアからの木材輸入が多かったが今はリサイクル貨物や化学関係であり、港湾の使い方の見直しのためには計画の見直しが必要と考えている。危険物を出したいという企業も何社かあるが、倉庫もないのでできない状況。旅客ターミナル等の整備も含めて、港湾計画の見直しが必要と考える。また、後背地について、他地域との連携も当然必要であり、そのためには高速道路の整備が必要。北港はまだ空き地があるように見えるが、実はほとんど売り地はない。現在埋立しているところはそのような計画もあるが、県とも協議しながら、新しい工業団地を検討していきたい。商業については、店舗数、従業員数が減少しており、酒田市だけではなく県内同じような傾向にあるが、引き続き活性化に取り組んでいく。

⇒陸羽西線の貨物利用について、酒田港への輸送を考えた場合鉄道は一つの手段であると思うが、現在の陸羽東西線の整備状況を見ると、市として陸羽西線は山形新幹線の延伸、モノよりはヒトの交流促進を図って活性化につなげていきたいと考えている。陸羽東線についても、全国レベルの整備を行なう状況ではない。一方、高速道路については地域高規格道路等の整備が進んでおり、宮城県側との連携についても今年度一部調査を開始

するとのことで、スピード感から言えば道路整備のほうが進捗が図られているので、鉄道はまずは旅客を考えていきたい。来年度、山形県では総合高速交通体系の検討に着手すると聞いているので、その議論も注視しながら見守っていきたい。

【農業、産直について】

(委員) この20年で日本全国の第一次産業・農業漁業林業があまりにも停滞してしまった。その原因は、100年先を見越した一貫した政策がなかったからであり、同時に、それに携わる我々のような団体にも責任がある。今ここに来てようやく新たな段階を迎えている。農協でも、担い手、法人営農、集積率がかなり高まってきている。10数年前までは個別完結型農業が主体であったが、平成28年度で約43法人ができつつある。面積にして3,000ヘクタールくらい、まだまだ4割にも満たない状況。今後も法人が伸びるかどうかが、限界もあると思う。やらなければならないのは、いかに競争力を高める農業経営体を育てていくかであり、行政の力を借りなければどうしてもできない場面も多くある。産学官が連携を取りながら、新たな農業経営体を育成するためにもがんばっていかなければならない。また、庄内空港の名称が「おいしい庄内空港」になったが、名前負けしていないか。庄内の食が魅力あるものなのか、実際に酒田市内で観光客に本当に美味しいものを提供しているのかどうか。たしかに海鮮市場等はかなりの賑わいを見せている。今年の連休に内陸の産直施設を見たが、すごいにぎわいだった。東根市の産直の売上は10億円、寒河江市のパーキングの側にある産直は7、8億円。庄内では、鶴岡や櫛引の産直の売上が3、4億円。残念ながら山居館の売上は、一番多いときで1億円超、今は残念ながら7千万円くらい。こうなってしまったのは、酒田は道の駅や物産館等の整備が遅れてしまった事実がある。酒田の年間観光客数は約300万人で、意向調査を見ると山居館や本間邸の人气が落ちている。逆に、傾向として高くなっているのは駐車場の広いところ。資料館のデータを見ると観光客数と道路網は非常に密接な関係がある。道路が複線になった段階でお客さんがぼったり止まっている。街なかの名所・旧跡のところでもかなりの客が逃げている。行政からがんばっていただき、産直施設や物産館の建設等観光客から喜ばれるようなことをやっていただきたい。例えば、山居倉庫を拠点とした場合、海鮮市場や酒田市内は自転車で回れば30分くらい、徒歩で回れば2時間くらいとちょうど良いコース。それが観光客はどこへ行っているのか見えない。今、農家で一番元気なのは、1メートル四角の棚で経営をやっている砂丘施設の利用者。我々も見つめ直して、それらの開発を支援していく必要がある。漁協との連携ももっと図っていく必要があると思っている。

⇒東根市、寒河江市の産直施設は、たしかに酒田にはないにぎわいのある産直施設のようである。しかし、酒田の食ということで考えれば、全く負けるような内容ではないと思っているので、市だけでなく農協さん、漁協さんと力を合わせてやれるのであれば大変良いものができるのではと考える。

【農商工連携、交通について】

(委員) 私たちのクラブ員はほとんどが直売所に携わっていて、集落営農や認定農業者、大規模農業を目指してがんばっている。それらに外れた方もかなりいて、その方たちは加工品等を産直施設に出しているが、多くは60歳前後から65歳くらいの方で、高齢化で疲弊している。地域の伝統文化も引き継いでいるような年齢で、仕事を後継者に任せることがスムーズ

にしている人は多くない。また、農商工連携についても真剣に考えないと、酒田の物産を外に出していけないのではないかと危惧している。中心商店街は市でも力を入れて模索してやっている。私達もレストランなどを行ったところにぎわい、大変喜ばれたが、一方で商店街の中の連携がうまくいっていないと感じた。例えば、自分のところにお客さんがいないときに隣に来客があった際、駐車場を融通するという事はなかった。お客さんにとっても駐車場は大きい問題。また、公益大学生からは農家にアルバイトで来てもらったり、様々なイベントに手伝ってもらったりしているが、遠くまで自転車で通っている。交通の便が悪いということが酒田の欠点かと思う。

⇒公益大と連携して、昨年度からるんるんバスの助成をしている。多くの公益大生がアルバイトや会合でバスを利用して市内中心地に来ているので、今後も交通の利便性を確保していきたい。また、市公共交通網形成計画を策定しているが、民間の交通会社、タクシー・ハイヤー組合等と連携しながら、るんるんバス、デマンドタクシーのあり方を検討していかないと非効率的な交通インフラ政策になる。商店街については様々な課題があるが、来年4月には中町にぎわい健康プラザが開設されるほか、中町モールの改修も予定されている。今後も空き店舗の改装助成など含め中心商店街の活性化に努めていきたい。産直などについても適地があれば検討に取り組んでいきたい。

【広域連携、情報発信について】

(委員) 県外から来て5年経つ。以前は関西、名古屋、東京に住んでおり、当時のお客さんが庄内に来てくれることがあるが、庄内にどうやって行くのか、そもそも庄内という言葉を知らない。庄内に空港があると言うと驚かれる。庄内には酒田と鶴岡2つの市があり首長は違うが、市民は明日の幸せを求めて生きている。行政間の結びつきを高めていただいて、農産物にしても、観光にしても、庄内が一緒になってアピールしないと情報発信ができない、下手だと思う。関西では酒田はほとんど知られていない。私は酒田にいろんな魅力を感じている。米、果物、観光ももっとアピールするべき。今後10年の計画を作るにあたって現状と課題を見つめ直しているのでぜひ情報発信を、少なくとも鶴岡市とは行政同士うまく手を取り合って、両方でうまく発信しないと受け取る側としては難しい。10万以上の市が2つあるが共倒れするのではないかと危惧する。どうにかして県外から企業や観光客に来てもらうためには情報発信が必要だと思うので、新しい計画にはその方法も考えて入れ込んでほしい。

⇒山形新幹線庄内延伸の説明について補足する。また、委員からは庄内全体で連携して取り組んでいなければいけないとの意見があり、そのとおりだと思っている。延伸に関して言えば、陸羽西線高速化連絡協議会が昨年度再開した。今年度、最上の全市町村と鶴岡市を含めた庄内での会員拡大を図っているのも、更に連携を促進していきたい。また、県庄内総合支庁もあるが、各市町でも連携を促進して、対外的PRも含めがんばっていききたい。

【林業について】

(委員) 松くい虫の話があったがスギの話もしたい。最近では柱材も12.5センチから10センチが主流になっており、無垢材もほとんど使われなくなって集成材を使うことが多くなっている。建坪も50坪だったものが今は30坪程度で、全体のスギの使用量が半分以下に減っている。

る。戦後 70 年が経ち間伐に入っていく時期だが、最近は山の手入れをする人もほとんどいない。今までは各地区で林道を管理し、6 月と 11 月に集中的にきれいにしていたが、それをする人もいなくなり、1 年に 1 回がやっとの状況。このようなことについても、市と森林組合と一緒に考えていきたい。

⇒戦後植えた 50 年、60 年材が山に豊富にあるが、これまで山に人が入らないが故にいい材が採りにくい現状にある。ここにきてバイオマス発電の燃料として必要とされているが、先人が大切に育ててきた木が燃やすためだけに使われるのはいけないと思っている。間伐として山に切り捨てられたものはバイオマス発電の燃料として使うが、良材は住宅材、集成材として活用されるよう考えている。市としては、山に人が入るように、また、材を出せるような手立てを講じていきたい。

○連絡事項（事務局より）

- ・現状と課題の議論について、追加で意見があればお知らせいただきたい。
- ・次回の部会の日程について、本日の議論を踏まえ、どういう基本構想、計画にするかということ議論することになると思われるが、年明けに部会を開催する方向で改めて日程調整をさせていただきたい。
- ・現状と課題の扱いについては現時点のものであり、今後、加筆修正しながら年度内に改訂版をとりまとめる。

以 上